当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	無期限（2024年12月20日設定）
運用方針	ゴールド／オール・カントリー株式戦略（以下、「当戦略」といいます。）のパフォーマンスに連動する担保付社債を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主要運用対象	ＳＧイシュアーが発行する担保付社債を主要投資対象とします。 〈担保付社債について〉 ・ソシエテ・ジェネラルの100％子会社であるＳＧイシュアーが発行する担保付社債です。 ・ソシエテ・ジェネラルの保証が付されます。 ・ゴールド／オール・カントリー株式戦略を円評価したパフォーマンスに連動します。
組入制限	担保付社債への投資割合は制限を設けません。 デリバティブの直接利用は行いません。投資対象とする担保付社債において、デリバティブ取引および外国為替予約取引は、当該投資対象資産を保有した場合と同様の損益を実現する目的ならびに価格変動リスク、金利変動リスクおよび為替変動リスクを回避する目的以外には利用しません。
分配方針	年1回（8月20日。休業日の場合は翌営業日）決算を行い、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当収入と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、信託財産の成長に資することを目的に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。 ③収益分配にあてず信託財産内に留保した利益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

明治安田ゴールド／オール・カントリー株式戦略ファンド
愛称：ゴルカン

運用報告書（全体版）

第２期

（決算日　2026年8月20日）

受益者のみなさまへ

平素は「明治安田ゴールド／オール・カントリー株式戦略ファンド」にご投資いただき、厚くお礼申し上げます。

さて、当ファンドは、第2期の決算を行いましたので、期中の運用状況につきましてご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

MYAM 明治安田アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区大手町二丁目３番２号
ホームページ https://www.myam.co.jp/
〈運用報告書のお問い合わせ先〉
サポートデスク　0120-565787
（受付時間：営業日の午前９時～午後５時）

◎設定以来の運用実績

決算期	基準価額			債券組入比率	純資産総額
	(分配落)	税込み分配金	期中騰落率		
	円	円	%	%	百万円
(設定日) 2024年12月20日	10,000	－	－	－	578
(第１期) 2025年 8月20日	10,486	0	4.9	95.3	2,623
(第２期) 2026年 8月20日	12,791	0	22.0	96.3	2,194

(注１)設定日の基準価額は、設定時の価額です。
(注２)設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。
(注３)当ファンドは、ゴールド／オール・カントリー株式戦略のパフォーマンスに連動する担保付社債を主要投資対象とします。特定の指数を上回るまたは連動をめざした運用を行っていないため、また、適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

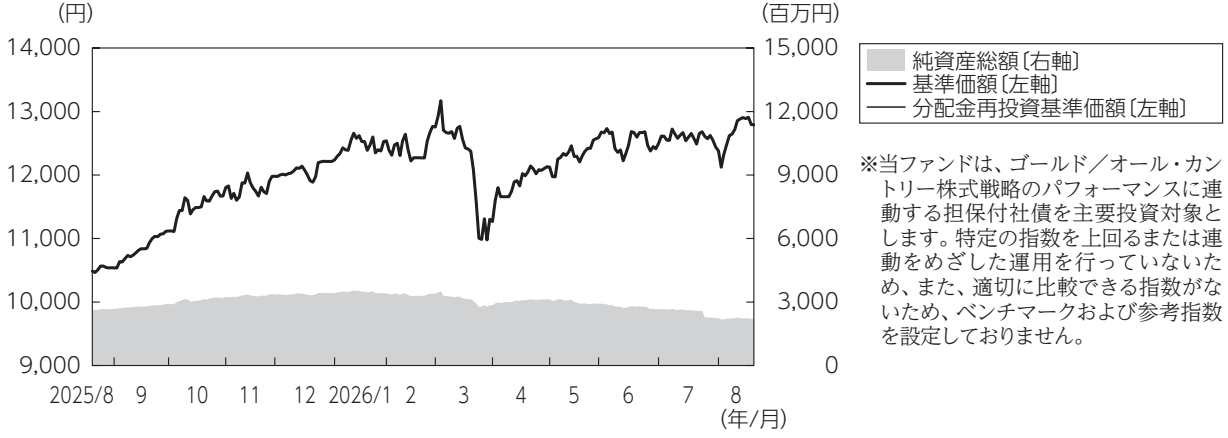
◎当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		債券組入比率
		騰落率	
	円	%	%
(期首) 2025年 8月20日	10,486	－	95.3
8月末	10,539	0.5	97.7
9月末	11,114	6.0	96.6
10月末	11,802	12.6	97.4
11月末	11,979	14.2	96.7
12月末	12,238	16.7	97.0
2026年 1月末	12,539	19.6	97.3
2月末	12,755	21.6	99.4
3月末	11,267	7.4	98.6
4月末	12,124	15.6	97.0
5月末	12,588	20.0	98.6
6月末	12,496	19.2	98.3
7月末	12,381	18.1	97.4
(期末) 2026年 8月20日	12,791	22.0	96.3

(注１)騰落率は期首比です。
(注２)当ファンドは、ゴールド／オール・カントリー株式戦略のパフォーマンスに連動する担保付社債を主要投資対象とします。特定の指数を上回るまたは連動をめざした運用を行っていないため、また、適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

運用経過の説明

■基準価額等の推移



※当ファンドは、ゴールド／オール・カントリー株式戦略のパフォーマンスに連動する担保付社債を主要投資対象とします。特定の指数を上回るまたは連動をめざした運用を行っていないため、また、適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

第2期首(2025年8月20日)：10,486円
第2期末(2026年8月20日)：12,791円(既払分配金0円)
騰落率：22.0%(分配金再投資ベース)

※分配金再投資基準価額は分配金実績があった場合、分配金(税込み)を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
※分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
※騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

■基準価額の主な変動要因

ファンドの運用方針に従い、ゴールド／オール・カントリー株式戦略のパフォーマンスに連動する担保付社債を主要投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。投資対象資産の価格変動等による基準価額の変動要因は以下の通りとなりました。

(上昇要因)
・世界株式価格（米ドル建て）が上昇したこと
・金価格（米ドル建て）が上昇したこと
・米ドルが日本円に対して上昇したこと

(下落要因)
・2026年3月、米国・イスラエルとイランの間での軍事衝突により世界株式および金価格が下落したこと

■投資環境

当期の世界の株式相場は、米国の金融緩和期待やＡＩ（人工知能）関連需要の拡大、堅調な企業業績を背景に上昇しました。2026年に入ると米国の通商政策やＡＩ関連株の割高感から変動が大きくなり、3月には中東情勢の緊迫化を受けて調整しましたが、4月の停戦合意を受けて市場心理が改善し持ち直しました。地域別では、米国株は大型ハイテク企業主導で上昇し、欧州株や新興国株も底堅く推移しました。

当期の金価格は利下げ期待や各国中央銀行の買い需要を背景に上昇しましたが、3月の中東紛争時にはインフレ懸念や米金利上昇を背景に株式とともに下落しました。その後は回復し、期を通じて上昇しました。

当期の為替市場では、米国景気の底堅さや日米金利差を背景に米ドル高・円安が進行しました。

■当該投資信託のポートフォリオ

期首の運用方針に基づき、ゴールド／オール・カントリー株式戦略のパフォーマンスに連動する投資成果を目指す担保付社債の組入比率を高位に維持しました。

当期における株式と金のポジションの変遷は以下の通りとなりました。

当期のＳＧセンチメント指標の判定によるポジションは、期初に「リスクオン」（株式100％）から「安定的」（株式80％、金20％）へ調整し、その後は概ね安定的な配分を維持しました。2025年12月には市場心理の改善を受けて再び「リスクオン」となりましたが、2026年1月以降は政策不透明感から慎重姿勢を強めました。2月下旬から4月上旬にかけては「リスクオフ」（株式10％、金90％）とし、防御的な運用を実施しました。4月以降は中東情勢への警戒感後退を受けて段階的に株式比率を引き上げ、その後は「リスクオン」と「安定的」の間で調整しながら、期末は「安定的」（株式80％、金20％）を維持しました。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは、ゴールド／オール・カントリー株式戦略のパフォーマンスに連動する担保付社債を主要投資対象とします。特定の指数を上回るまたは連動をめざした運用を行っていないため、また、適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

■分配金

・収益分配については、分配対象額の水準、基準価額水準等を勘案した結果、見送りとしました。
・収益分配にあてず信託財産内に留保した利益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

（単位：円・%、1万口当たり、税引前）

項　目	第2期
	(2025年8月21日～2026年8月20日)
当期分配金	－
（対基準価額比率）	－
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	2,790

(注1)対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
(注2)当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

引き続き、ゴールド／オール・カントリー株式戦略のパフォーマンスに連動する投資成果を目指す担保付社債の組入比率を高位に維持します。

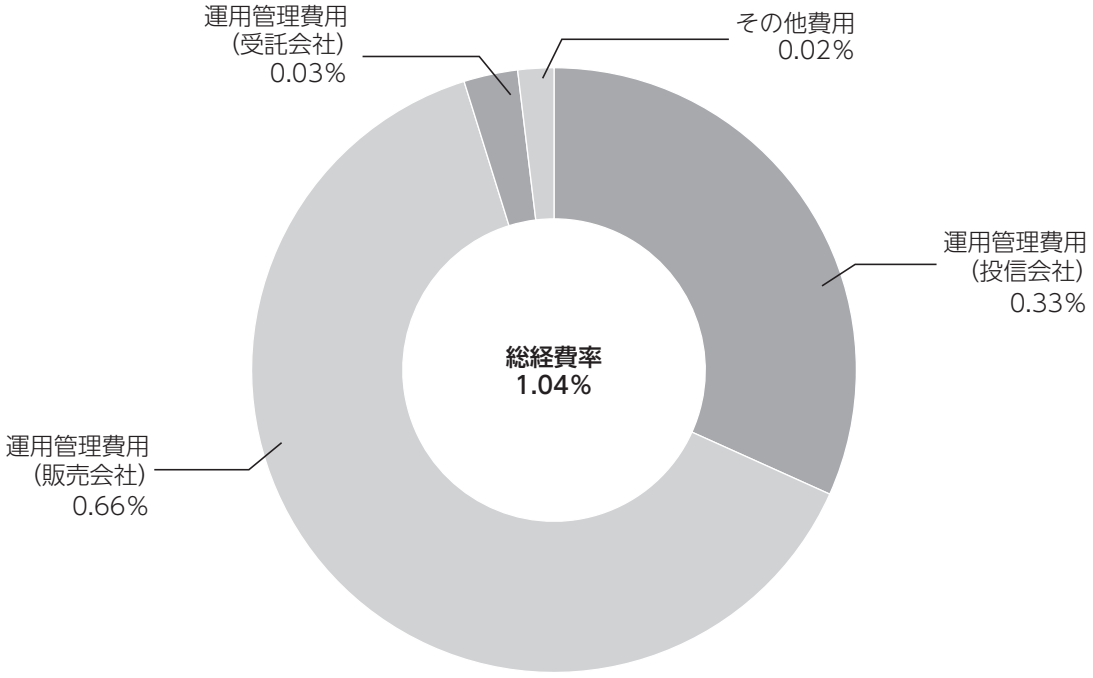
◎1万口当たりの費用明細

項　目	当期 (2025年8月21日～2026年8月20日)		項目の概要
	金額	比率	
(ａ)信託報酬	123 円	1.023 %	(ａ)信託報酬＝期中の平均基準価額×期末の信託報酬率 ※期中の平均基準価額は11,985円です。
(投信会社)	(40)	(0.330)	ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、法定書類等の作成等の対価
(販売会社)	(79)	(0.660)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(4)	(0.033)	ファンド財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(ｂ)その他費用	2	0.015	(ｂ)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	(1)	(0.010)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理等に要する諸費用、信託財産に関する租税等
合　　計	125	1.038	

(注１)期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
(注２)消費税は報告日の税率を採用しています。
(注３)各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注４)各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第３位未満は四捨五入してあります。

（参考情報） 総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.04%です。



（注）費用は、１万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
（注）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。
（注）各比率は、年率換算した値です。
（注）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。
（注）上記の総経費率に加え、主要投資対象とする担保付社債に掛る費用は年率1.46%となりました。費用の内訳は以下のとおりです。
債券管理費用等（0.15%）、ゴールド／オール・カントリー株式戦略の複製費用（0.30%）、ポジション構築費用等（0.58%）、取引費用（0.43%）。

◎売買及び取引の状況（2025年8月21日～2026年8月20日）

○公社債

			買付額	売付額
			千円	千円
外国	ルクセンブルグ	社債券（投資法人債券を含む）	341,485	1,358,639

（注１）金額は受渡し代金。（経過利子分は含まれておりません。）
（注２）単位未満は切り捨て。
（注３）社債券（投資法人債券を含む）には新株予約権付社債（転換社債）は含まれておりません。

◎利害関係人との取引状況等（2025年8月21日～2026年8月20日）

期中の利害関係人との取引はございません。

（注）利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

◎組入資産明細表

○国内（邦貨建）公社債（種類別）

区分	当期末						
	額面金額	評価額	組入比率	うちＢＢ格以下組入比率	残存期間別組入比率		
					５年以上	２年以上	２年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
社債券（含む投資法人債券）	1,605,000	2,112,661	96.3	－	96.3	－	－
合計	1,605,000	2,112,661	96.3	－	96.3	－	－

（注１）組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。
（注２）単位未満は切り捨て。
（注３）－印は組み入れなし。
（注４）評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

○国内（邦貨建）公社債（銘柄別）

当期末				
銘柄名	利率	額面金額	評価額	償還年月日
（社債券（含む投資法人債券））	%	千円	千円	
ソシエテ・ジェネラルユーロ円債ゴールドオールカントリー株式	－	1,605,000	2,112,661	－
合計		1,605,000	2,112,661	

（注）額面・評価額の単位未満は切り捨て。

◎投資信託財産の構成

2026年8月20日現在

項目	当期末	
	評価額	比率
	千円	%
公社債	2,112,661	94.9
コール・ローン等、その他	114,029	5.1
投資信託財産総額	2,226,690	100.0

(注)評価額の単位未満は切り捨て。

◎資産、負債、元本及び基準価額の状況

2026年8月20日現在

項目	当期末
(A)資産	2,226,690,059円
コール・ローン等	48,252,297
公社債(評価額)	2,112,661,500
未収入金	65,775,000
未収利息	1,262
(B)負債	32,617,901
未払解約金	18,092,300
未払信託報酬	14,447,986
その他未払費用	77,615
(C)純資産総額(A－B)	2,194,072,158
元本	1,715,374,213
次期繰越損益金	478,697,945
(D)受益権総口数	1,715,374,213口
1万口当たり基準価額(C/D)	12,791円

◎損益の状況

自 2025年8月21日
至 2026年8月20日

項目	当期
(A)配当等収益	1,103,422円
受取利息	464,724
その他収益金	638,698
(B)有価証券売買損益	357,191,598
売買益	579,482,375
売買損	△222,290,777
(C)信託報酬等	△ 31,325,327
(D)当期損益金(A＋B＋C)	326,969,693
(E)前期繰越損益金	40,764,050
(F)追加信託差損益金	110,964,202
(配当等相当額)	(19,563,551)
(売買損益相当額)	(91,400,651)
(G)計(D＋E＋F)	478,697,945
(H)収益分配金	0
次期繰越損益金(G＋H)	478,697,945
追加信託差損益金	110,964,202
(配当等相当額)	(19,563,551)
(売買損益相当額)	(91,400,651)
分配準備積立金	367,733,743

(注1)当ファンドの期首元本額は2,501,870,221円、期中追加設定元本額は1,041,091,078円、期中一部解約元本額は1,827,587,086円です。
(注2)1口当たり純資産額は1.2791円です。
(注3)損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
(注4)損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬等に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
(注5)損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
(注6)計算期間末における費用控除後の配当等収益(1,006,313円)、費用控除後の有価証券等損益額(325,963,380円)、信託約款に規定する収益調整金(110,964,202円)および分配準備積立金(40,764,050円)より分配対象収益は478,697,945円(10,000口当たり2,790円)ですが、当期に分配した金額はありません。

【お知らせ】

・一般社団法人日本投資顧問業協会と一般社団法人投資信託協会が合併し、「一般社団法人資産運用業協会」に名称を変更したため、投資信託約款に所要の変更を行いました。（2026年4月1日）